

EPR工法協会

部分補修活用の視点も



会長 上瀧 裕之

当協会では、経済的・効率的な管路延命化手法として部分補修工法の活用を30年以上にわたり提案してきました。昨今の社会情勢を見ますと、八潮市道路陥没事故に端を発し、過去に前例がないほど下水道管路のメンテナンスに関心が寄せられており、その有力な対策手法として当協会の保有技術にも注目が集まっています。全国特別重点調査の優先箇所調査結果では、2割弱が要対策箇所と報告されましたが、年度末

にかけて残る調査箇所の結果も出てきます。相当の箇所では緊急対策が求められると思いますが、全てを管きょ更生工法等で対策するのは現実的ではありません。総合的な管路延命化対策が求められる中では、改築・部分補修を適材適所で効果的に活用できるような制度設計が行われることを望んでいます。われわれ民間団体としても、部分補修の枠を超えた新たな技術の開発、既存技術の改良の努力は惜しみません。